

## ペルー 今シーズンのブドウ輸出量は減少

The Grape Reporter 2024年1月10日

ここ数日、ペルーのマスコミは生食用ブドウ産業に関して、「2023-24年度のブドウ輸出シーズンは順調にスタートした」との同じ論調の見出しを共有している。しかし、本当にそうだろうか？

これに対し、ペルー生食用ブドウ生産者協会(Provid)のマヌエル・イザガ・ディボス会長は、ペルーの生食用ブドウ産業について誤解を招くようなニュースが広まっていることを示唆する短いビデオを公開した。それによると、ブドウ産業が成長していると信じ込まされていたが、実際に起こったことは収穫が早まったことと、気象現象(サイクロンとエルニーニョ)による生産性の低下であった。

こんなことで、ペルーは引き続き生食用ブドウ輸出の世界チャンピオンでいられるだろうか？

ペルーの農業関係の重鎮の1人であり、サフコペルー輸出会社の統括部長であるベンジャミン・シロニス氏は、イカ県(南部)の出荷シーズンはまだ終わっていないと言う。(以下「」は同氏の発言)

「昨シーズン、道路封鎖により小職の推計で70万箱の損失があったことを考えると、収穫間近の果実を失うようなことが起こらない限り、イカ県は出荷シーズンの終盤の輸出を増やすと見られる。イカ県で起こった最悪なことは、エルニーニョ現象が地方銀行にもたらした極端な被害妄想であった。銀行が顧客を適切に分別せず、生産者全員がうまくいかない想定していたため、流動性資金が十分でない我々は苦勞した。過去のシーズンに得られた資金を獲得するのが簡単ではなかった。」

ペルーのマスコミの楽観的な見出しについて同氏は、何が起きているかという、前年同月と比較しているが、今シーズンは収穫が早いだけだと説明する。

「2023年は純統計的な、場合によっては会計上の増加で終了したが、業界の状況を分析すると、あまり実用的でも現実的でもない。」

今シーズンを分析すると、すべてのことが示しているのは、ペルーの北部地域は当初の予測よりも大きな影響を受けるようだということである。また南部では、収穫量が昨シーズンの7,200万箱に達する可能性は低い。

「私見としては、4月から10月の気温の上昇は、イカ県の生食用ブドウにとってマイナスよりもプラスの方が多かったと思う。肯定的なことは、生育の早期化、発芽の改善、間引きのしやすさなどに関係している。しかし、生育が早いと、果粒重が軽くなるか、なんらかの病害虫の発生率が高くなる可能性があることも言うておかねばならない。いずれにせよ、技術チームは予見して予防策を講じることができ、今のところうまくいっている。」

### イカ県：労働力の供給源

シロニス氏は、気温は10月以降ほぼ平年並みになったと指摘し、これまでのところ、イカ県にとって生産性の高い年だったと考えている。

「生食用ブドウは、私が知る限り最も難しい作物なので、いつ誰が失敗してもおかしくない。市場に関しては、カリフォルニア州の生産量のほぼ40%の損失によって引き起こされた品不足と、ペルーの北部地域からの供給の減少について、我々はすでに話し合った。これまでのところ市場に関しては、イカ県にとってすべてがうまくいっているように見える。」

この記事の最後に、シロニス氏は本サイト(FreshFruitPortal.com)に対し次の情報を提供した：

「ペルーからの生食用ブドウの輸出に関する最新の統計が出ており、北部の落ち込みは予想よりも大きい。北部には施設栽培があまりないと仮定すると、ピウラ県とランバイエケ県が昨シーズン輸出した3,300万箱に対して、この地域の落ち込みは約1千万箱と見積もることができる。」

イカ県は昨シーズンよりも1,200万箱少ない。何か異常なことが起こらない限りこの数字を達成し、この数字を超えるかも知れないが、現時点ではペルーは今シーズンの輸出量が減っているのが現実である。」